

第8回視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会資料

構成員による読書バリアフリー に関する活動について

日本視覚障害者団体連合 三宅隆

筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 宇野 和博

日本DAISYコンソーシアム 河村宏

調布市立図書館 小池 信彦

(公社)日本図書館協会 高橋正名

全国視覚障害者情報提供施設協会 竹下 亘

視覚障害者等当事者団体

団体名	日本視覚障害者団体連合	氏名	三宅隆
-----	-------------	----	-----

○読書バリアフリー推進に関する活動内容

取組	<p>弱視(ロービジョン)の会員への研修会の開催 令和3年7月3日(土)、本連合の弱視部会の委員総会において、「弱視者(ロービジョン)と読書」をテーマにした研修会を開催した。当日は、文部科学省及び文化庁の担当者にご出席いただき、読書バリアフリー法と著作権法の一部改正に関する講演、委員との意見交換を行った。</p>
成果	<p>まず、この研修会を開催した背景には、かねてより同法の普及活動を全国で進める中で、「弱視(ロービジョン)の視覚障害者の読書に対するニーズを把握していないこと」が課題になっており、そのニーズの掘り起こしが必要になってきたことが挙げられる。また、弱視者(ロービジョン)に話を聞くと、同法の内容を知らない者も多く、弱視者(ロービジョン)に対して同法を周知し、同法を上手く活用してもらうことも課題になっていた。</p> <p>そのため、本連合の加盟団体の弱視(ロービジョン)の代表者が集まる弱視部会において、弱視者(ロービジョン)の読書に対するニーズの把握と、同法の仕組みや意義を伝えることを目的とした研修会を開催した。開催の結果、参加者からは「地域での取り組みを進めることの大切さを知った」、「弱視者(ロービジョン)も読みやすい本を求めていることを訴える必要がある」等の意見があった。</p> <p>なお、この研修会の開催があったことも含め、本連合の加盟団体の一部においては、同法の基本計画づくりや同法による各種支援に対して、弱視者(ロービジョン)のニーズを含めた要望活動を行っている。例えば、要望活動を通して、日常生活用具の視覚障害者用ポータブルレコーダーの支給対象を弱視者(ロービジョン)が中心となる6級まで拡大した自治体がある。</p>
今後の課題・計画	<p>弱視者(ロービジョン)が求める読書については、まだまだ未整理な部分が多く、ニーズの整理が必要と感じていることから、本連合では、引き続き弱視(ロービジョン)の会員から意見を集めている。その中で、多くの弱視者(ロービジョン)からは「自身の見え方にあった本」が欲しいとの意見は多く、読む本の拡大や色の変更が可能となるアクセシブルなPDFデータや電子書籍の普及が必要だと感じている。特に、「文章に加え写真や図表が見やすくなる」との意見もあることから、一般流通している書籍等のバリアフリー化が必要ではないだろうか。また、弱視(ロービジョン)は学齢期の者にも多いことから、教科書や副教材等のバリアフリー化も必要ではないだろうか。</p>
添付資料	<p>日視連 弱視部会 令和3年度委員総会 報告書 URL http://nichimou.org/all/news/secretariat-news/220307-jimu-2/ ※添付は該当ページのみを切り取りました。</p>

3 研修会① 弱視者（ロービジョン）と読書

研修会①は「弱視者（ロービジョン）と読書」をテーマに、文部科学省と文化庁より講師を招き、令和元年6月に成立した「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（通称：読書バリアフリー法）」に関する文部科学省と文化庁の取り組みについての講義を行った。

読書バリアフリー法については、多くの委員から同法が分かりにくく勉強したいとの声があったことから、研修会のテーマとして取り上げた。また、国の関係者協議会において同法の議論を行う中で、弱視者（ロービジョン）の読書に対するニーズが未整理ではないかとの意見があったことから、弱視者（ロービジョン）のニーズを確認する目的も含めてテーマとした。

講義を聞いた参加者からは、地域での取り組みを進めることの大切さを知った、弱視者（ロービジョン）も読みやすい本を求めていることを訴える必要がある等の意見があった。

1. 講師（敬称略）

文部科学省 総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室 室長補佐 宮本二郎
文化庁 著作権課 専門職 堂脇義音

2. 主な内容

- (1) 読書バリアフリー法について
 - ・ 読書バリアフリー法の背景と概要
 - ・ 関係者協議会と基本計画の策定
 - ・ 基本計画の概要
 - ・ 文部科学省の取り組み

- (2) 著作権法の一部を改正する法律について
 - ・ 図書館関係の権利制限規定の見直し
 - ・ 放送番組のインターネット同時配信等に係る権利処理の円滑化



【写真：研修会の様子】

第8回視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会資料

構成員個人・組織

団体名	筑波大学附属視覚特別支援学校	氏名	教諭 宇野 和博
-----	----------------	----	----------

○読書バリアフリー推進に関する活動内容	
取組	<p>7月 視覚障害教科教育研究会講師 「読書バリアフリー法と視覚障害児の学習環境のこれから」</p> <p>9月 文字・活字文化推進機構シンポジウムコーディネーター 「本と多様な立場の読者をつなぐために」</p> <p>9月 読書バリアフリー研究会講師 「読書バリアフリー法ってどんな法律？」</p> <p>10月 鳥取県読書バリアフリーフォーラム講師 「すべての県民に読書の喜びを 読書バリアフリーの現状と課題」</p>
成果	
今後の課題・計画	
添付資料	

第8回視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会資料

構成員個人・組織

団体名	日本DAISYコンソーシアム	氏名	河村宏
-----	----------------	----	-----

○読書バリアフリー推進に関する活動内容

取組	<p>アクセシブルな電子出版の国際標準規格の開発と普及に取り組み、並行して日本電子出版協会(JEPA)と共同して、『デジタル社会に必要な情報 アクセシビリティ』と題する講演会を実施した。同講演会の記録は、Youtubeで視聴できる。 (https://www.youtube.com/watch?v=lvubIn6C3cw)</p>
成果	<p>国際DAISYコンソーシアム(https://daisy.org/)の日本を代表する正会員である日本DAISYコンソーシアムは、技術委員会を設置して、日本からISOに提案したアクセシブルな電子出版の国際標準規格である「ISO/IEC 23761:2021 - Digital publishing — EPUB accessibility」の発行に貢献した。 このISO規格化に引き続き、同規格のJIS化についても日本DAISYコンソーシアムは積極的に貢献し、「JIS X 23761 EPUBアクセシビリティー EPUB出版物の適合性及び発見性の要求事項」が近く発行される見込みである。 日本DAISYコンソーシアムは、この他に、ルビの読み上げに関する問題点の解決のためにW3C、グーグル、マイクロソフト、アップル等のWebブラウザの仕様と実装に関与する主要な団体に問題解決を促す公開書簡を送り、現在それに応えるための関係者間の協議が進行中である。 ルビ問題の他にも、日本語の縦書き・横書きの切り替え、分かち書き等、日本語文書固有のアクセシビリティに関わる規格上の問題の解決についての取り組みも進めている。</p>
今後の課題・計画	<p>EPUBアクセシビリティのJIS化に引き続き、このJIS規格の社会実装に取り組み、読書バリアフリーの本質的な解決策であるボーン・アクセシブルな電子出版(アクセシブルな電子出版物の発行)の普及に取り組み、「読者よし」「著者よし」「出版者よし」の「三方よし」を実現することが次の課題である。</p>
添付資料	

第8回視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会資料

構成員個人・組織

団体名	調布市立図書館	氏名	小池 信彦
○読書バリアフリー推進に関する活動内容			
取組	<p>公共図書館は「すべての住民の学習権の保障」「いつでも・どこでも・だれでも利用できる図書館」を目標としています。印刷された資料を読むことができない、来館が難しいなど、利用するうえで図書館側にある障害を取り除き、誰もが使える図書館が実現することを目指しています。</p> <p>中央図書館6階に利用支援コーナーを設け、見えない・見えにくい方や高齢・病気などで来館できない方、障害のある子どもたちを対象に、多くの市民の方の協力を得てサービスを行っています。</p> <p>具体的には、音訳サービス、点訳サービス、大活字本の提供、宅配サービス、子どもたちへの布の絵本・布の遊具の提供、ウェブサイトなどを音声で読み上げさせるためのパソコンや拡大読書器の設置などがあります。</p> <p>『数字で見る図書館活動 令和2年度版』</p>		
成果	<p>宅配： 高齢化社会に伴い、一般資料を利用する宅配利用者は増加、利用支援サービス資料を利用する人は減少傾向にある。</p> <p>録音図書： DAISY図書、雑誌の貸出は横ばい、サピエ、NDL送信サービスは増加傾向にある。</p>		
今後の課題・計画	<p>音訳者、点訳者の活動継続と養成 継続して活動する人が減少する傾向があり、養成講座を開催し、新規に活動する人を増やし、スキルアップ研修を実施していく。</p> <p>利用支援サービスについての広報活動 サービスを知ってもらうため、関係部署との連携により広報を行い、各種目録や利用案内を更新、配布していく。</p>		
添付資料	『数字で見る図書館活動 令和2年度版』 「利用支援」		

5 利用支援

公共図書館は「すべての住民の学習権の保障」「いつでも・どこでも・だれでも利用できる図書館」を目標としています。印刷された資料を読むことができない、来館が難しいなど、利用するうえで図書館側にある障害を取り除き、誰もが使える図書館が実現することを目指しています。

中央図書館6階に利用支援コーナーを設け、見えない・見えにくい方や高齢・病気などで来館できない方、障害のある子どもたちを対象に、多くの市民の方の協力を得てサービスを行っています。

具体的には、音訳サービス、点訳サービス、大活字本の提供、宅配サービス、子どもたちへの布の絵本・布の遊具の提供、ウェブサイトなどを音声で読み上げさせるためのパソコンや拡大読書器の設置などがあります。



利用支援コーナー



拡大読書器

(1) 利用登録者数の推移

印刷された文字をそのままでは読むことができない方に使っていただける利用支援用資料（DAISY、マルチメディアDAISY、布の絵本・布の遊具など）を貸し出すためには、利用支援サービスの登録が必要です。調布市立図書館では、このサービスを担当する部署名に「ハンディキャップサービス係」という名称を用いてきましたが、よりわかりやすい係名にするため、平成31年4月に「利用支援係」に変更しました。しかし、電算システム上は旧名称を引き継いでいるため、HS資料、HS利用者となっています。令和2年度の団体登録（HS団体）は、ありませんでした。

高齢化社会に伴い、一般資料を利用する宅配利用者は増加してきましたが、利用支援サービス資料を利用する人は減少傾向にあります。

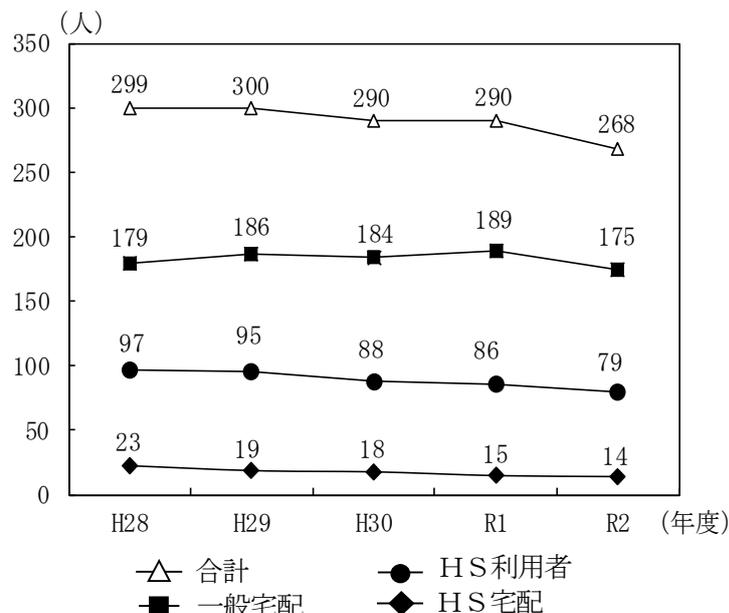
個人利用登録者数の推移 (人)

年度 区分	H28	H29	H30	R1	R2
HS利用者	97	95	88	86	79
HS宅配 ※1	23	19	18	15	14
一般宅配 ※2	179	186	184	189	175
合計	299	300	290	290	268

各年度3月31日現在

※1 HS資料を利用する図書宅配利用登録者

※2 一般資料を利用する図書宅配利用登録者



(2) 音訳サービス

ア 録音図書の作成・貸出し

録音図書とは、本を1冊まるごと音声にしたものです。録音図書はデジタル化が進み、テープ図書からDAISY図書^{※3}へ移行しています。DAISY図書は、専用の再生機で再生することで、しおりを付ける、章ごとに頭出しする、読みたいページに移動するなどの操作が可能です。

新しく出版された本の情報や利用者からのリクエストをもとに音訳する資料を選び、DAISY図書の作成・貸出しを行っています。調布市立図書館で所蔵のない録音図書は、全国の点字図書館などから取り寄せることができます。また、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」^{※4}を通して、DAISY図書データをダウンロードし、貸出しすることも可能です。サピエの利用は個人でも登録ができ、図書館を通さず直接利用可能なため、調布市立図書館の録音図書貸出数が減少している一因となっています。

また、国立国会図書館の「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」からもDAISY図書データをダウンロードし、貸し出すことができます。これは、平成26年1月に開始されたサービスで、国立国会図書館や全国の公共図書館などで製作された点字図書、DAISY図書データをインターネットからダウンロードできるサービスです。調布市立図書館で作成したDAISY図書データも試行の段階から提供しており、全国で利用されています。

イ 対面朗読・プライベート音訳サービス

図書館の資料や新聞・雑誌・個人所有の資料など、希望の資料を音訳者が読む対面朗読のサービスを行っています。録音図書が一方向の利用であるのに比べて、内容や語句についての疑問をその場で辞書を引いて確認したり、複数の本から読みたい部分だけを比較しながら聞いたりできるというメリットがあります。また、希望の資料を音訳者が録音し、利用者に提供するプライベート音訳サービスも行っています。家電

製品の取扱説明書や、趣味の資料など、幅広く利用されています。

ウ マルチメディアDAISYの作成・貸出し

ディレクシア（読み書きの困難）など、文字の認識が難しい方の読みを手助けするものとして、マルチメディアDAISYがあります。マルチメディアDAISYは電子書籍の一種で、パソコンなどで再生できます。音声に合わせて画面の文章や絵が色で強調されて、読んでいる箇所や読み方を目と耳で確認しながら読むことができます。利用支援コーナーでは、パソコンとタブレット端末を用意し、利用者の閲覧に供しています。購入や寄贈により収集しているほか、自館でも作成しています。しかし、タイトル数の少なさや認知度の低さから、必要とする方へ十分に資料を届けられていない現状があり、広報活動が課題となっています。

※3 国際標準規格DAISY (Digital Accessible Information System) で作成したデジタル版の録音図書のことです。

※4 「サピエ」は、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある人に対して、点字やDAISY図書のデータなど、さまざまな情報を提供するネットワークのことです。

録音図書 所蔵数

(タイトル)

資料形態		年度	H28	H29	H30	R1	R2
録音 図書	テープ図書		2,421 (2,417)	2,421 (2,417)	2,421 (2,416)	2,417 (2,412)	2,418 (2,412)
	DAISY 図書		2,246 (2,232)	2,541 (2,520)	2,727 (2,705)	2,976 (2,949)	3,173 (3,147)
マルチメディアDAISY 図書			213 (3)	237 (8)	236 (7)	254 (25)	262 (33)

※（ ）内は自館で作成し受入れしたもの。ほかに、購入や寄贈により受入れしたものがああります。

録音図書 貸出数

(点)

資料形態		年度	H28	H29	H30	R1	R2
録音 図書	テープ図書		44	16	27	100	72
	テープ雑誌		0	0	0	0	0
	DAISY 図書		4,390	3,948	3,655	3,408	3,083
	DAISY 雑誌		386	361	256	201	193
マルチメディアDAISY 図書			35	27	25	73	0

サピエ利用状況 (音声DAISY)

(タイトル)

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
ダウンロードしたタイトル数	1,592 (4)	1,782 (75)	1,709 (151)	2,012 (167)	1,609 (137)

※（ ）内はダウンロードしたタイトル数のうち、サピエ個人会員によるダウンロード数です。

国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービス

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
DAISY 図書データ提供数（タイトル）	1,625	1,839	2,026	2,303	2,477
提供データが利用された回数（回）	61,265	55,845	50,388	59,409	66,838

対面朗読

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
回 数	129	135	129	105	37
時 間	239	274	256	191	55

(3) 点訳サービス

ア 点訳図書の作成・貸出し

点訳図書は、調布市の地域資料を中心に作成し、蔵書としています。調布市立図書館に所蔵がないものは、全国の点字図書館などから取り寄せて貸し出します。

イ 点訳プライベートサービス

学校だよりや家電製品の取扱説明書など、利用者の生活に関わる資料を点訳するプライベートサービスを行っています。

また、「市報ちょうふ」（広報課）、「市議会だより」（調布市議会）、「調布市ごみリサイクルカレンダー」（ごみ対策課）、「ふくしの窓」（調布市社会福祉協議会）、「健康カレンダー」（健康推進課）などを定期的に点訳し、希望者へ送付しています。

点訳サービス実施状況

年 度	蔵書数 (冊)	貸出数 (冊)	点訳件数 (件)	点訳枚数 (枚)	校正枚数 (枚)	点訳者 (人)
H28	477	4	90	3,096	3,153	25
H29	489	7	88	2,935	3,113	25
H30	489	10	89	2,804	3,166	25
R1	508	5	83	2,784	2,761	24
R2	517	8	66	2,915	2,915	22

※ 枚数は、点字で印刷した際の使用紙の枚数です。

(4) 大活字本の収集・貸出し

調布市立図書館では、平成元年度から大きな文字でよみやすい大活字本を収集しており、誰でも借りることができます。元来は弱視の方を対象とした出版物であったため、平成28年4月1日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことにより、徐々に出版点数が増えてきました。現在は、高齢の方の利用も多くなっ

ています。

中央図書館では4階一般室に、分館ではそれぞれの大活字本コーナーに置き、半年に一度分館間の資料の入替えを行っています。また、大活字本の所蔵目録を毎年作成し、希望者に配布しています。

令和元年10月から、一般社団法人霞会館より定期的に拡大写本（大活字本）が寄贈されています。

大活字本蔵書冊数 (冊)

年度	購入冊数	蔵書冊数
H28	90	5,348
H29	415	5,717
H30	207	5,896
R1	244	6,134
R2	155	6,004



冊号	書名	著者名	出 示
0	総記		
1	【故事物語 特選生きる心の確】 1 中国故事物語 1	駒田信二	河 14
2	【故事物語 特選生きる心の確】 2 中国故事物語 2	ほか	河 14
3	【故事物語 特選生きる心の確】 3 中国故事物語 3	駒田信二	河 14
4	【故事物語 特選生きる心の確】 4 中国故事物語 4	ほか	河 14
5	【故事物語 特選生きる心の確】 5 中国故事物語 5	駒田信二	河 14
6	【故事物語 特選生きる心の確】 6 中国故事物語 6	ほか	河 14
7	【故事物語 特選生きる心の確】 7 中国名宮故事物語 1	寺尾善雄	河 14
8	【故事物語 特選生きる心の確】 8 中国名宮故事物語 2	寺尾善雄	河 14
9	【故事物語 特選生きる心の確】 9 漫話故事物語	寺尾善雄	河 14
10	【故事物語 特選生きる心の確】 10 日本故事物語 1	池田弥三郎	河 14
11	【故事物語 特選生きる心の確】 11 日本故事物語 2	池田弥三郎	河 14
12	【故事物語 特選生きる心の確】 12 日本故事物語 3	池田弥三郎	河 14
13	【故事物語 特選生きる心の確】 13 日本故事物語 4	池田弥三郎	河 14
14	【故事物語 特選生きる心の確】 14 日本故事物語 5	池田弥三郎	河 14
15	【故事物語 特選生きる心の確】 15 百人一首故事物語 1	池田弥三郎	河 14
16	【故事物語 特選生きる心の確】 16 百人一首故事物語 2	池田弥三郎	河 14

「大活字本目録」

(5) 宅配サービス

平成13年度から宅配サービスを開始しました。心身の障害で外出が困難な方や、高齢者、出産前後の方など、図書館を利用したくても来館できない市民を対象に、図書宅配協力員（登録している市民ボランティア）や職員・図書館専任職員が、最寄りの図書館から徒歩や自転車などで資料を直接届けています。平成14年9月からは郵送サービスも行っています。平成24年度からは、急な怪我や体調不良で来館が困難な方を対象に、一回に限り宅配に伺うスポット宅配を開始しました。これまでのPR活動の成果もあり、宅配件数は多くの館で増えていましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、減少しました。

令和2年度 宅配サービス実施状況

館名 項目	館名												分館小計	郵送※	合計
	中央	国領	調和	深大寺	神代	宮の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	染地	佐須				
登録者数(人)	46	16	14	19	16	23	11	7	11	14	12	143	-	189	
宅配協力員数(人)	15	3	5	3	5	3	4	2	3	5	4	37	-	52	
実施回数(回)	261	123	58	107	107	117	188	56	43	100	71	970	0	1,231	
貸出資料(点)	1,716	967	368	616	801	350	795	371	442	405	776	5,891	0	7,607	

※ 郵送サービスの利用者数は、中央または分館の宅配登録者に含まれます。

(6) 子どもへのサービス

ア 布の絵本・布の遊具の収集・貸出し

平成2年度から、「公益財団法人ふきのとう文庫」や布のおもちゃ製作グループ「ぐるぷ・もこもこ」製作の布の絵本・布の遊具の収集を始めました。平成18年度に初めて布の絵本製作者の養成講座を行い、受講者は平成19年度から「ふかふか屋」として活動を始めました。平成24年度には2回目の養成講座を行い、現在では18人の製作者が製作・修理を行っています。

丸洗いをすることが難しい布の絵本・布の遊具を清潔に保つため、平成25年に書籍消毒機（紫外線と風により本の殺菌消毒ができる機械）を導入しました。

布の絵本・布の遊具は、利用支援に登録している個人に貸出しを行っているほか、子ども発達センターや特別支援学級などに団体貸出ししています。また、おはなし会（絵本の読み聞かせや手あそびなど）のプログラムに布の絵本を取り入れ、子どもたちの反応を見ることで布の絵本・布の遊具の資料としての価値を確認し、利用促進や製作に活かしています。

布の絵本・遊具 所蔵数・貸出数 (点)

年度	所蔵数	貸出数
H28	352	305
H29	363	243
H30	385	271
R1	396	256
R2	415	110



布の絵本展示の様子

『うたのえほんNo.2』（のぐち みつよ 作）

イ マルチメディアDAISY※（児童書）の収集・貸出し

マルチメディアDAISY版の児童書を購入や寄贈により収集するほか、自館で作成するなどして貸出ししています。また、児童サービス係と連携して小学生へのガイダンスで紹介するなど、利用促進に努めています。

※ マルチメディアDAISYについては、「(2) 音訳サービス ウ マルチメディアDAISYの作成・貸出し(p.56)」に詳しく記載しています。

(7) 広報活動

利用の拡大を目指し、毎年、市内在住の視覚障害者（障害者手帳1・2・3級をお持ちの方）で利用登録していない方や、しばらく利用がない方に対して、障害福祉課と協力して広報活動を行っています。利用支援の案内と「録音図書目録」の一部を編集・収

『数字で見る図書館活動 令和2年度版』
録した「図書館のご案内」に加え、平成28年度から、実際に録音図書を聞く体験をして
いただく試みとして、録音図書の一部を抜粋し収録したCDを送付しています。

利用支援の登録者には、毎月、声のお知らせ「オカリナ通信」を作成し送付していま
す。また、「録音図書目録」を毎年改訂し、墨字版※だけでなく、音声版（DAISY版
やカセットテープ版）、テキストデータ版といった、利用者の要望に沿った媒体で送っ
ています。これらの内容は図書館のホームページにも掲載しています。利用者からは「オ
カリナ通信」「録音図書目録」のほか、「新着図書案内」や「東京都公立図書館新作情報」
などの情報から予約やリクエストが寄せられています。

また、利用支援コーナーでは季節ごとに展示を変更しています。市報などの広報誌へ
の記事掲載や、地域のボランティアまつりでのPRなど、多くの市民に利用支援を知っ
てもらうために、広報活動を行いました。必要としている方にサービスが行き渡るよう
に努めています。

※ 墨字とは、点字に対して、書かれた文字や印刷された文字のことを言います。



利用支援コーナーの展示



PRチラシ



※ 調布市立図書館で使用している
宅配専用バッグを持っています。
※ 左上には点字で「じろ」と書いて
あります。

調布市立図書館
公式キャラクター じろ

令和2年度 利用支援発行物及び送付物

名 称	内 容	発行数・送付数等
図書館のご案内 (障害福祉課との共管事業)	利用案内・録音図書目録及び録音図書のデモンストレーションCDの送付 年1回 対象：未登録で市内在住の1・2・3級の視覚障害者，しばらく利用がない利用支援登録者	音声版 137人
オカリナ通信	図書館などからのお知らせ，新しい録音図書の案内，サピエ新作情報，新聞書評 毎月発行 下記の発行物の音訳版も同封 ・「新着図書案内」(調布市立図書館発行) ・「図書館だより」(調布市立図書館発行) ・「ぱれっと」(調布市文化・コミュニティ振興財団発行) 対象：送付を希望する利用支援登録者	音声版 37人 1施設
東京都公立図書館 新作情報	都内公立図書館で新たに作成した録音・点訳図書の紹介 東京都立中央図書館発行 隔月発行 対象：送付を希望する利用支援登録者	送付人数 20人 媒体別送付数 音声版 16人 墨字版 1人 テキストデータ版 4人
録音図書目録	調布市立図書館所蔵の録音図書の目録 毎年発行 市内各図書館で配布 対象：送付を希望する利用支援登録者	墨字版 120部 送付人数 67人 媒体別送付数 音声版 45人 墨字版 32人 テキストデータ版 2人
大活字本目録	調布市立図書館所蔵の大活字本の目録 毎年発行 市内各図書館で配布	墨字版 190部
布の絵本目録*	調布市立図書館所蔵の布の絵本・布の遊具の目録 蔵書の状況により改訂版を発行 市内各図書館で配布	令和2年度は 新規発行なし

* 「布の絵本目録」は，墨字版のほかに，全ページを写真で確認できる目録を作成し，市内の図書館などに置いています。

令和2年度 利用支援広報活動

事業名	内容	回数等
関係機関発行物への記事掲載	市報、『障害者福祉のしおり』、『くらしの案内シルバー編』、『元気に育て！調布っ子』に案内を掲載	4回
イベントでのPR	利用支援サービスの説明や宅配サービス等のチラシ配布を実施 ボランティアまつり染地 5月 富士見ふれあいのつどい 6月 調布市福祉まつり 12月 調布市敬老会(資料配布のみ) 9月	※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。
布の絵本展示	市内各図書館で布の絵本・布の遊具の展示を実施 通年(中央図書館及び6分館) 子ども家庭支援センターすこやかにおける展示会協力 ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。	市内7箇所

(8) 音訳者・点訳者・布の絵本製作者向け講座・講習会

例年、調布市立図書館で活動して下さる音訳者(31人)、点訳者(22人)、布の絵本製作者(18人)を対象にした講座を開催しています。これまでの講座修了者による自主勉強グループの活動も行われています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、音訳者養成講座及び布の絵本製作者養成講座は中止しました。点訳者養成講座は、新規に調布市立図書館の点訳者となっていただくための初級講座を12年ぶりに開催しました。

各グループの自主勉強会も、感染状況を見極めながらの実施となりました。

令和2年度 講座・講習会

講座名	期日・対象・会場・参加人数	講師及び内容
音訳者養成講座 (中級) (全1回)	調布市立図書館登録の音訳者 文化会館たづくり ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 しました。	講師：佐藤 聖一氏 内容：公共図書館における音訳

『数字で見る図書館活動 令和2年度版』

点訳者養成講座 (初級) (全10回のうちの 第1～4回)	3月4, 11, 18, 25日(毎週木曜日) (令和2年度から3年度にかけて開催) 10時00分～12時00分 文化会館たづくり1001学習室 受講者14人	講師: 片岡 ^{かたおか} 和代 ^{かずよ} 氏 内容: 新規の点訳者を 養成する初級講座
--	---	---

令和2年度 音訳者・点訳者・布の絵本製作者による自主勉強グループの活動

グループ名	定例日・会員数・会場	内 容
水曜会(音訳)	第2水曜日 30人 文化会館たづくり601・602 会議室ほか	作成途中の録音図書の互評と音訳技術 研さんのための学習
調布ブライユ (点訳)	第2・4木曜日 2人 中央図書館対面朗読室	「市議会だより」(年4回), 「ふくしの 窓」(隔月)などの点訳, 点訳作業の打 合せと校正
点訳くすのき (点訳)	第2・4水曜日 20人 文化会館たづくり601 会議 室ほか	「市報ちょうふ」(月2回), 行政資料 などの点訳, 点訳作業の打合せ
ふかふか屋 (布の絵本製作)	第1・3水曜日 16人 文化会館たづくり601・602 会議室	布の絵本・遊具の製作及び修理

(9) その他事業

例年、4月に協力者(音訳者・点訳者・布の絵本製作者)との懇談会、11月に利用者懇談会を開催し、利用支援に対する意見を伺っていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

令和2年度 その他事業

事業名	実施日・会場・参加人数等
利用支援協力者懇談会	令和2年4月7日(火) 10時00分～11時30分 文化会館たづくり601・602 会議室 令和元年度活動報告(利用支援係職員) ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。
利用支援サービス 利用者懇談会	令和2年11月12日(木) 10時00分～11時30分 文化会館たづくり601・602 会議室 ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

(10) 実習生・職場体験の受入れ

例年、日本図書館協会主催の「障害者サービス担当職員養成講座（基礎コース）」の実習館として、受講生を受け入れていますが、オンライン開催となったため、実習はありませんでした。

中学生の職場体験には、点字を打つ体験をしてもらうなど利用支援の仕事も組み入れています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。

(11) 利用支援用資料の収集

平成25年度に作成した「調布市立図書館ハンディキャップサービス資料収集等に関する方針」に基づき、資料を収集しています。現在、調布市立図書館には自館作成の資料のほか、市販及び寄贈のDAISY図書、マルチメディアDAISY図書、点字資料、布の絵本・布の遊具、点字絵本、LL^{*}ブックなどを所蔵しています。

※ LLはスウェーデン語のLättläst（やさしく読みやすい）の略です。

構成員個人・組織

団体名	(公社)日本図書館協会	氏名	高橋正名
-----	-------------	----	------

○読書バリアフリー推進に関する活動内容

取組	<p>(1)図書館の障害者サービスを進展させるための出版物の刊行 JLA図書館実践シリーズ「図書館利用に障害のある人々へのサービス 補訂版」上下巻 日本図書館協会障害者サービス委員会編 2021年11月(印刷版)、2022年5月(アクセシブルなEPUB版) JLA図書館実践シリーズ「障害者サービスと著作権法 第2版」 日本図書館協会障害者サービス委員会・著作権委員会共編 2021年1月(印刷版)、2021年5月(アクセシブルなEPUB版)</p> <p>(2)図書館職員研修会の開催、全国の研修会への講師派遣 障害者サービス担当職員向け講座(国立国会図書館との共催) 障害者サービス担当職員養成講座(中級) その他、全国の図書館等からの多数の講師依頼に対応。</p> <p>(3)読書バリアフリー関連の実態調査・検討会等への委員派遣 全国公共図書館協議会「令和3・4年度調査研究事業 公共図書館における読書バリアフリー」 全国視覚障害者情報提供施設協会「点字図書館等におけるアクセシブルな書籍等の提供体制及び製作状況に関する調査研究」 東京大学先端科学技術研究センター「学校図書館等におけるアクセシブルな書籍等の共有を目指した読書バリアフリーコンソーシアム」 国立国会図書館「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」</p>
成果	<p>基本書の刊行や職員研修会の開催により図書館職員のスキルアップにつながった。 全国公共図書館協議会や全国視覚障害者情報提供施設協会による障害者サービスの全国実態調査の実施により、読書バリアフリーの現状把握のみならず、課題や今後の方向性を見つけることができた。</p>
今後の課題・計画	<p>引き続き職員等向け研修会を開催すると共に、今秋までに以下二つの関連資料を発表し、図書館の取り組みを推進していきたい。 (1)「障害者サービス基準(公共図書館編)」(館種別に行うべき障害者サービスを提示し、指標化するもの) (2)「地方公共団体において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定するための指針」</p>
添付資料	なし

第8回視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会資料

構成員個人・組織

団体名	全国視覚障害者情報提供施設協会	氏名	竹下 亘
-----	-----------------	----	------

○読書バリアフリー推進に関する活動内容

取組	<p>「サピエ図書館」の利用拡大を図る取り組みについて 特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会</p> <p>*2021年度、厚生労働省の補助金を元に、視覚障害者等を対象とした「サピエ図書館」のPR動画「サピエ図書館で読書の喜びを！」(21分)を製作し、5月から公開を開始した。現在は、以下のページ(URLは暫定)で閲覧可能。 URL https://youtu.be/1-ju1dnpF2U 7月中には、当協会が開設する新しいホームページに掲載して、公開予定。 それに合わせて、この動画を紹介するチラシを製作し、全国の公共図書館等約1,500館に送付して、利用対象者と家族、支援者等への広報を行う。</p> <p>*2022年度は、当協会の会員施設・団体(101ヶ所)中10ヶ所程度で、全国各地域の公共図書館等を対象に、サピエ図書館の利用方法や活用の仕方などの実習を行う研修会を開催する予定である。</p>
成果	
今後の課題・計画	
添付資料	